

令和7年度 第3回梅坪台地域会議 会議録

■ 日 時 令和7年7月8日（火） 午後7時～午後8時30分

■ 場 所 梅坪台交流館 2階 大会議室

■ 出席者

＜委 員＞	岩崎 洋平	岩松 初男（欠席）	川井 圭子
	鈴木 重久	鎮西 和也	長江 秀昭
	三岡 英隆	山村 史子	依田 武人

＜交流館＞ 杉山 浩子（梅坪台交流館 館長）

＜事務局＞ 塚田 征弘（地域交流課 副課長） 槌井 功二（地域交流課 担当長）
勝野 一城（地域交流課 主査） 山下 慎介（地域交流課 会任）

■ 内 容

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告・協議事項
 - （1）地区コミュニティ会議関係について（報告）
 - （2）地域課題について（協議）
 - ①意見交換（ヒアリング）内容について
 - ②意見交換（ヒアリング）の進め方について
- 4 連絡事項

■ 議事内容（要約）

- 2 あいさつ
 - ・鈴木会長あいさつ
- 3（1）地区コミュニティ会議関係について（報告）
 - ・鈴木会長から以下のとおり報告
 - ・各委員会報告
 - 社会を明るくする運動、梅の収穫収益金の寄付、ふれあいまつり、二十歳のつどいなどの行事の進捗説明
- （2）地域課題について（協議）
 - ① 意見交換（ヒアリング）内容・進め方について
 - ・事前確認の状況及び情報提供について委員等から報告
 - ・梅坪台子どもと地域をつなぐ会修正試案の発表
 - ② 今後の会議の進め方について
 - ・意見交換

＜主な意見＞

■意見交換（ヒアリング）内容・進め方について

●事前確認の状況及び情報提供について委員等から報告

＜学校長、教頭への確認状況＞

- ・子ども会は、任意の団体なので広く子どもを対象とした活動のほうがよい。
- ・子どもたちが直接イベントに携わっていくことが望ましいが、子どもの時間を割くことは難しいのが現実。

→上記の学校意見を踏まえて、学校を通じて子どもたちにイベントの企画の希望をとる形がよいと思う。

＜自治区長への確認状況＞

- ・京町みたいに子ども会を引き受けられる人材があればやりたいが、なかなかその人材がない。
- ・梅坪自治区は3つの子ども会があり、今のところ順調に運営されており、状況を見守っている。
- ・上原自治区については、3つの子ども会が2つになり、会員数が少ない。理由として、役員がいずれ回ってくるので最初から入のをやめようという声がある。
- ・東梅坪町自治区は、子ども会が1つあるが加入が少ない。子ども自身は参加したいと思っても保護者の意向により加入を控える状況が見られる。

＜コミュニティ会議への確認状況＞

- ・青少年育成委員会の委員長には地域会議の議論の状況を伝えているが、委員会の中でコミュニティ会議での対応を議論するところまでには至っていない。青少年育成委員会か企画部会どちらで議論すべきか今後検討。

●報告を受け、意見交換

- ・学校へ確認していただいたように、子どもたちが主体となって進めていくのがよい。子どもたちの意見を聞いて進めるためにも、こういった組織が必要だと思う。
- ・各自治区の状況について、今のところ梅坪町自治区は大丈夫そうだが、ほかの自治区でも厳しい状況になってきている。入会者が減り役員をやられる、どんどん入会が減るといった負のサイクルが生まれている。今ある子ども会を尊重しつつ、新しい組織がうまくフォローできるとよい。
- ・梅坪町自治区の今の人たちはやれているが、今後問題になってくると思う。今の会長も自分の子どもがいるうちはやろうという感じで頑張ってくれている。
- ・学校共働本部の事務局になるのは大丈夫か。
→学校には、本日の地域会議で修正した案を再度提出する予定だが、感触としては悪くない。協力的に考えてくれているので、学校側の意見も取り入れていきたい。
- ・自分が区長を務めていた際、子ども会から解散の意向について相談を受けたが、当時は深刻には受け止めていなかった。その後、実際に2つの子ども会が解散する事態となった。こうした経験を踏まえ、他の自治区でも同様の状況とならないよう、先手を打った丁寧な対応を心がけたい。

■梅坪台子どもと地域をつなぐ会修正試案について

●修正案の主な説明

- ・子ども会のサポートとしていたが、子ども会にこだわらず子どもと地域がつながる仕組みを作ることが重要なので、子ども会という文言を外した。
- ・子ども会のサポートが目的ではなく、子どもが地域にかかわる活動を支援することで、地域に愛着を持つ子どもを育てることを大きな目的とした。

●質疑・意見交換

- ・景品、賞品の費用はどうなるか。
→現段階では、まだ考えていない。市の地域課題解決事業に取り上げてもらったり、協賛金を募ったりなどが考えられるが、まだ具体化していない。
- ・事業の開催場所はすべて同じ場所で行うのか。
→サポート委員の負担軽減のため、同じ場所で開催し対象自治区の子どもが変わるという方法を思っている。
- ・自治区毎の単位での開催がよいと思う。サポート委員の自治区ごとにやった方が親近感がある行事になるのではないか。
- ・目的から考えると、入学・進級祝い、クリスマス会の開催は、地域と子どものつながりがイメージできない。例えば、地域のお祭りに参加する方がいいのではないかと感じる。
→入学・進級祝い、クリスマス会は最低限やることとして、その他お祭り等への参加もやっていけばよいのではないか。
→基本的には「子どもたちが地域の人たちと触れ合う活動を支援をする」ことが目的となる方がよいのではないか。
- ・共働本部に事務局を置けそうという事で進めてよいか。
- ・子ども会に限ってサポートするのは、共働本部では不可であったと思うので、組織図の「子ども会」を「子ども会及び子どもたち」または「子どもたち」にすべきではないか。子ども会へのサポートと子どもたち全体へのサポートを切り分けて整理する必要がある。
- ・小学校、共働本部、サポート委員を横並びにして、子どもたちを支えていく図にしてはどうか。
- ・地元を会場に使うのか交流館などを使うのかを整理したほうがよい。
- ・組織図に書いてある各自治区三役、サポート委員を記載していいのか各関係者に了解を取っていくのが今後のステップ。
- ・既存の各子ども会をつぶそうとしているのではなく、自治区のお祭りなどつながりがある部分は支援して残していく。表現としてわかりにくいかもしれないが、組織図中の「梅坪小学校」で子どもたち全体を対象としていることを表しているつもりである。
- ・自治区もコミュニティも現段階は、はっきりしてないがドロップアウトしていくのか。
→コミュニティ会議、交流館も子どもたちと地域をつなぐ役割がもちろんあり、組織図に入っているからやる、入っていないからやらないではない。自治区として懸念されているのは、自治区行事などの地域情報が子ども会に入っていない子どもたちに届けることができないという課題があると聞いている。自治区3役がこの組織の中に位置づけられてどん

な役割を担ってもらうのか、早い段階で情報提供していく必要があると思う。

- ・ 共働本部が統一的な運営をしないと子どもの個人情報心配であるため、一番安全性の高い共働本部が事務局として情報管理していくのがいいと思う。

■ 今後の会議の進め方について

- ・ ヒアリングの質問票について、中段2と3の質問は、どちらも必要であるの回答になるに決まっているので、つながりを維持するためにどのような支援を行うべきかなど、もう少し突っ込んだ質問をした方がよいのでは。
- ・ すでに支援体制の検討を進めているので、この案を自治区3役に説明して意見をもらいたい。協力してもらえるのか、継続的にやっていってもらえるかどうか意見を聞きたい。
- ・ 具体的に自治区にサポート委員の選出、会費徴収の協力、活動費の支給などができるか確認したい。
- ・ 自治区長さんに少し話をしたときに、子ども会のことは地域会議がやってくれるんだねという認識の区長さんもいる状況で事前に説明が必要。いきなりヒアリングは難しい。

＜決定事項と次回に向けた課題について＞

- ・ 8月12日の地域会議を8月19日（火）に変更し、18時30分からの地区区長会に事前説明に何うこととする。
- ・ 9月9日（火）の地域会議で区長さんも交えてディスカッションをする。
- ・ 子ども会の中間報告を参観日の後に実施するのは、今後、学校と調整する。
- ・ コミュニティ会議については、区長会の事前説明が済んだ後に11月2日（ふれあい祭り終了後）以降の企画部会の委員に説明する日程を調整する。

4 連絡事項

- 会議資料の連絡にメールアドレスのある方は、空メールを地域交流課に送ってほしい。LINE も連絡手段としては便利なため登録していない方は、登録をお願いしたい。

■ 今後の予定

令和7年度 第4回梅坪台地域会議

8月19日（火）午後6時30分～地区区長会に事前説明

8月19日（火）午後7時 ～ 梅坪台交流館大会議室にて

9月 9日（火）午後7時 ～ 地域会議と自治区長と意見交換